

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370501088
法人名	有限会社 清和会
事業所名	グループホーム 城やしき
訪問調査日	平成19年10月16日
評価確定日	平成19年12月4日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2370501088		
法人名	有限会社 清和会		
事業所名	グループホーム 城やしき		
所在地	名古屋市東区城屋敷町一丁目3番 (電話) 052-411-5877		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年10月16日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(平成19年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤7人, 非常勤11人,	常勤換算7.18人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,600 円	その他の経費(月額)	34,400 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年10月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	7名	要介護2	3名			
要介護3	6名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.3 歳	最低	70 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	鷓飼病院・増子記念病院・さくら歯科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、歴史ロマンに色取られた村里、城屋敷町にあり、緑の屋根の2階建てで隣りは重機置き場である。精神科医のオーナーや内科医の往診が週1回あり、入居者の健康管理など医療面のサポートは、家族や職員の安心感につながっている。日常生活の中でタオル体操、ボール遊び、家事分担、カラオケなど、多種の選択肢をつくり強制せず、「何となく温い、ちょっとうれしいな」と思える日々を重ねていけるよう「気くばり、目くばり、心くばり」を基に努めている。認知症ケアは「観察力と想像力が命」と考え、まずはやれることから地道に足元、土台を築き、「職員がよくなれば入居者もよくなる。そして地域に密着したホームへ」と施設長は今後の意気込みを話された。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	すぐにミーティングで話し合い、記録の書き方や整理整頓など、改善できることから着手し、質の確保、向上に向け取り組んでいる。運営推進会議の場でも意見や助言をもらい改善への手がかりとしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長はミーティングで評価について説明し、職員は自己評価に取り組んだ。「難しかった」という声も聞かれた。施設長は「職員が自分自身のケアの仕方について気付かされたことも多く、よかった」と話された。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、医師、大学教授、家族が参加し、今までに3回開催した。活動報告や外部評価結果の改善項目についても話し合っている。メンバーはホームをあたたく見守っており、客観的な意見や助言をいただくなど、ホームはありがたく思っている。第4回は10月の予定で、消防団が議題の一つになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族は、最低でも2週間に1回、週1~2回の訪問があり、近況報告や状態、思いなどを伝えている。写真は1年の思い出としてアルバムにし、喜ばれている。行事案内や「城やしきだより」は郵送している。運営推進会議への参加は半数程度で、家族会は特に要望もなく設置していない。苦情相談窓口の利用は無く訪問の際、意見や希望を言っただき、コミュニケーションを図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、4月からは回覧板にて地域の情報を得ている。幼稚園の敬老会に招待され参加したり、年1度、学区あげての子ども御輿の訪問がある。歌や楽器の演奏、マジックショー、フラダンスのボランティアに来てもらったり、クリスマスには牧師夫婦の訪問で賛美歌をうたったりして楽しい時を過ごしている。今後、さらに町内会活動などに出かけ交流を深めていきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、法人の理念や運営方針を分かりやすく表し「その人らしさを大切にし、安心して生きがいのある生活をするためのお手伝いをします。」というホーム独自の理念をつくりあげた。地域にはまだまだ知られていないが、“やれることから少しずつ”という地道な働きがけを続け、長続きする関係を築いていきたいと考えている。		地域密着型サービスの役割を理解し、住み慣れた地域での継続支援と果たすべき役割を理念の内容に将来的に反映されるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長は職員に、理念の実践に向けミーティングや日々の介護の場面で“信頼関係を築くことの重要性”を話している。表裏のある態度を取らず、チームケアで職員同士が思いやりを持ち“何となく温かい、ちょっと嬉しいな”と思える日々が重ねていけるよう努力している。認知症の介護は観察力と想像力が命と考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、4月からは回覧板にて地域の情報を得ている。幼稚園の敬老会に招待され参加したり、年1度、学区あげての子ども御輿の訪問がある。歌や楽器の演奏、マジックショー、フラダンスのボランティアに来てもらったり、クリスマスには牧師夫婦の訪問で賛美歌をうたったりして楽しい時を過ごしている。今後、さらに町内会活動などに出かけ交流を深めていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで評価について説明し、職員は自己評価に取り組み、「難しかった」という声も聞かれた。施設長は、「職員が自分自身のケアの仕方について気付かされたことも多くよかった」と話された。昨年度の評価の課題については、すぐにミーティングで話し合い、記録の書き方や整理整頓など改善できることから着手し、質の確保、向上に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、医師、大学教授、家族が参加し、今までに3回開催した。活動報告や外部評価結果の改善項目についても話し合っている。メンバーはホームをあたたく見守っており、客観的な意見や助言をいただくなど、ホームはありがたく思っている。第4回は10月の予定で、消防団が議題の一つになっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口である中村区の介護保険課へは手続きなどで行っている。名古屋市健康福祉局高齢福祉部介護指導課指定指導係や区役所の生活保護の方に関する連携は必要に応じて随時実施している。是非ホームの実情やケアサービスの内容など情報提供し、サービスの向上に向け課題解決にも協働していくことが望まれる。		市町村は介護保険の保険者としてはもちろん、市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として、事業の推進には大変重要な存在なので、まずホームの考え方や実情を伝え、実態を共有していくことが望まれる。また、課題解決に向け協働できる関係作りをされることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は、最低でも2週間に1回、週に1~2回の訪問があり、近況報告や状態、思いなどを伝えている。写真は1年の思い出としてアルバムを作り喜ばれている。行事案内や「城やしきだより」は郵送している。時には親類の方々も一緒ににぎやかな訪問もあり、家族等の気持ちが職員の支えになっている。金銭については、毎月請求書に用途明細やこづかい帳のコピーを同封し、残高確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議設置の際、全家族にお知らせし、半数程度の方の出席を頂いている。家族会は特に要望もなく設置していない。苦情相談窓口は設置してあるが、利用はない。訪問の際、ご意見やご希望を言っていただきコミュニケーションがとれている。職員と家族が同年代のことも多く、目線が合いうまく話しが共有できている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、女性職員が多いため家族事情によることもあるが、今は落ち着いてきている。入居者へのダメージを防ぐ配慮をしており、不安、不穏になるようなことはなく、スムーズに移行できている。現在職員はやや不足みであるが、補充予定もあり安定した介護が期待できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の実践者研修には毎回申し込みをしている。その他の外部研修は情報提供や声かけをして、自主的な意欲を引き出したいと考えている。希望者には勤務など調整している。パートの職員も意欲的に参加し、向上心が高い。ホーム内のミーティングに勉強会を組み込みテーマに添い初歩的なことから勉強している。現場での働きながらの職員育成にも努めている。緊急時の対応や救命救急法はマニュアルやプリント配布で学んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内や全国組織の同業者ネットワークには加入していない。名古屋市介護サービス事業者連絡研究会に参加しているが交流までには至っていない。地域の同業者とも徐々に交流し、情報提供やノウハウを身につけたいと考えている。まずはホーム内の体制づくり、介護スタイルを確立することが先決との思いである。		ホームの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、地域の同業者とネットワークづくりや勉強会、相互評価を通じて交流や連携を組むなどの具体的な取り組みをされることを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	電話や見学依頼があれば、施設長が対応し話しを聞いた、説明をしたりしている。この時なるべく本人同伴でお願いしている。具体的に申し込みがあれば、入居前診断として精神科と内科の受診をしてもらう。医師の診断、施設長の報告とでオ-ナ-が判断し、了解が得られれば家族に伝える。体験入居は実施していないが、職員は3カ月から半年ぐらいかけて心の安定が得られ、「にこっ」と笑いの表情を引き出せるよう試行錯誤を繰り返しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一人ひとりに安心して暮らしてもらう」ことに重点を置いている。いろいろな選択肢や場面を提供し「やりたいことをやらせよう」よう支援し、「ありがとう」「助かりました」などの感謝の言葉を忘れずにしている。生活全般で「なるほど」と思う知恵や工夫を教えることもあ。名前の呼び方を姓とか名前とかその人に合わせたり、個別の楽しみごとにあわせた外出も実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの聞き取りや日々の係わり合い、話しの中から本人の思い、意向の把握に努めている。施設長は職員に「プロ」の意識をもって自分を高め、常に入居者を真剣にきちんと見れば自ずと心理状態はわかると話している。認知症ケアには「観察力」と「想像力」が命と説いている。職員の意識を高めていく必要があると考えている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者がよりよく暮らすための課題とケアの方法について本人、家族、その他必要と思われる人より情報を集め、職員の意見やアイデアを反映させて介護計画を作成している。ケアカンファレンスで現場との話しあいが行なわれ、ミーティングでも入居者のことを話題にし、一人ひとりのその時点にあった計画を目指している。ケアプランチェック表にて職員は毎日必ずプランを意識し、介護に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期目標6カ月、短期目標3カ月に沿い、定期的な見直しを行なっている。職員からの情報を収集し、何かあればすぐに見直し、臨機応変に対応している。新たに変化がない場合は、精神面、身体面の観察によってニーズを汲み取り計画に反映している。家族からの希望はなるべく取り入れるようにしており、職員とのコミュニケーションは良好である。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族等のニーズ、例えばリハビリへの送迎などには柔軟に対応している。入居者のみならず家族などの介護者が安心して暮らし続けることができるように負担となる入院の回避や、入院時もなるべく早くホームへ戻れるよう早期退院へ向け支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は一人ひとりの希望に応じている。オーナーは精神科医であり、内科医による週1回の往診もあり医療機関との連携が図られている。家族などの通院介助の場合には、受診前後に職員にきちんと情報交換が行なわれ症状を把握している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、対応が必要になりそうな方には医師や家族等との話し合いを行なっているが、全員までには至っていない。対応に係わる指針、マニュアルなどはなく今後の課題である。ホームとしての方針を確立され、医師、職員、家族などで早期から、また状況変化に応じて繰り返し話し合いが行なわれる環境作りに期待したい。		今後はターミナルケアについての体制づくりも入居者や家族の意向を踏まえ、医師、職員などと連携して安心して暮らしつづけることができるように検討されたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者と信頼関係を築くために、相手を思う気持ちを持ち個々を尊重した介護に努めている。穏やかな対応ややさしい言葉かけがされており、明るくアットホームな雰囲気を感じられる。プライバシーについて日常的に書面やいろいろな場面で伝え徹底している。個人情報の使用については書面で同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言える人、言えない人の、状態や思いを考慮した対応をしている。できる限りその人のペースに合わせ、不穏にならず気分転換になるようなことを取り入れている。たとえば、職員付き添いのもとで喫煙するなど、見守りのなか柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>フロアの一角にある台所は開放的で、入居者が職員と一緒に話しをしながら気軽に食事作りの手伝いや調理、後片付けをできる空間になっている。宅配食材に時には補充をして、会話より希望を汲み取り、職員のアレンジで食事が作られている。1階と2階で別のメニューになることもある。食事は身体に密着しやすいよう曲線状にカットされた4人がけのテーブルを使い、職員も一緒に摂っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間帯は一応決まっているが、入居者の希望に対応している。1階には大きめのお風呂があり、数名で入ることもでき、夏場はシャワー浴もできる。冬場等の温度差に配慮して暖房装置が備え付けられている。シャンプー、石鹸などは好みのものを使用し、楽しく入浴できるよう工夫している。不安感から拒否されることもあったが、今はほとんどない。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の状態、思いを考慮し、強制することなく活動支援している。毎月季節の行事を取り入れ、飾りつけなどの役割をできる範囲内で行なっている。誕生日会では本人の好きなメニューを提供し、外食することもある。東山動物園や名古屋港水族館へ出かけたこともある。2階の階段踊場には昔懐かしいステレオや蓄音機などの品々があり、回想法に役立つ。時に職員との昔話から口数が増えて会話が弾むこともある。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に沿って外出支援している。馴染みの美容院へ出かけたたり、回転すしや喫茶店などの戸外へ出かけて気分転換になっている。東山動物園、名古屋港水族館、12月には名古屋駅のイルミネーションを見にでかけたたりした。気候的に過ごしやすい5月には数人ずつに分かれノリタケの森とか、豊国神社へ散歩がてら遊びに出かけゆったりと過ごし、五感刺激にもなった。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>防犯上、また、ホームまわりの交通量や交通事故の危険性を考慮し、入り口の玄関は施錠している。家族に説明し、同意も得て実施している。以前はリビングの扉も施錠していたが、現在は施錠せずセンサー音で対応している。リビングの扉の開閉時に鳴るアラーム音が心理的に圧迫感を与えたとの意見もあり、現在検討中である。</p>		<p>入居者の安全を確保しながら、外に出られない心理的不安、地域の人々にもたらす影響を考え、日中鍵をかけない工夫をされたい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時対応マニュアルは作成中で、実践的な避難訓練は実施されていない。ビデオを見て研修したり、入居者個人の大きなタンスの転倒防止の実施、避難経路の確保、災害時における役割分担は決めてある。非常災害時の備蓄品の備えはない。		マニュアルの完成、地域住民との連携協力を得ながらの避難訓練などの定期的実施の取り組み、災害に備えた非常用飲料水や備品等の準備確保を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活記録に毎日の朝、昼、晩の食事の摂取量を記入し、把握している。健康面で何かあれば、医師にその都度相談し、便秘薬の処方についても指示を仰いでいる。食事のメニューは栄養士がバランス管理している宅配食材を基本に一人ひとりの好みを取り入れながら、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングは、明るく開放的で、長いソファには手作りのカバーが掛けてあり清潔感がある。テレビの上の壁にかけられたカレンダーは文字も大きく、日付の認識が持てるよう工夫されている。天井や壁には入居者の個人作品や共同作品、季節感のある飾りつけがされており、落ち着いた雰囲気である。車椅子でも十分に移動できるゆったりした空間は安心と安らぎを与えている。トイレにも備え付けの暖房があり、IH調理器など設備面でも充実している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の思いの詰まったタンス、好みの本、写真、季節の花などが置いてあり、居心地よく過ごせる場となっている。洗面台は備え付けで、日々の口腔ケアやうがいなどを職員の見守りのもと行なっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。